

野菜の作業

気象変化の激しい時期です。保温・換気・かん水に気を配りましょう！。

種まき・植え付け	栽培管理のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・チンゲンサイ ・ダイコン ・カブ ・ニンジン ・モロヘイヤ ・スイートコーン ・えだまめなど 	<p>【野菜苗の定植方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時の天候等は、苗の活着や初期生育に影響しますので、薄曇りで比較的暖かく、風のない日を選びましょう。 また、春先は夕方急に寒くなることがありますので午前中に植え、夏などの高温期は逆に夕方の涼くなってから植え付けるようにしましょう。 なお、春先でも日中高温になる場合がありますので、植え付けの時間帯には注意しましょう。 ・5月末頃までに植え付けるトマト、キュウリなどの果菜類では、ポリマルチの生育効果が高いので、畦たてを早めに済ませておき、ひと雨降ってからなど土壌が適度に湿ってからマルチをかけ利用しましょう。マルチは、地温を高めるほか雑草防止、乾燥防止効果等もあるので便利です。
<p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、スイカ、オクラ、ズッキーニなどの果菜類 ・ネギ、ハクサイ、キャベツ、パセリ、セルリー、ブロッコリー、サトイモ、ナガイモ、サツマイモなど 	<p>【保温資材や防霜資材等の利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル被覆 春先の温度の低い時期に効果があり、10～15日くらいの早植え、早まきが可能です。うねの幅に合わせて支柱を立て被覆資材はポリフィルムを使用し、中央部で重なるように2枚がけとすると換気作業がしやすくなります。 特に、高温時はこまめな換気が重要となります。 ・テント(ドーム)及びプラスチックキャップ 果菜類等の定植又は播種時に十文字に支柱を立てポリフィルムで覆い周囲を土で押えます。(市販のプラスチックキャップでも良い。) 生育が進んだら頂部を切り取って換気します。 テント栽培の代わりに肥料の空袋を利用している事例もあります。 ・寒冷紗 寒冷紗は通気性があり光も適度に通すので霜よけほか、真夏の日よけ、アブラムシよけなどにも使えます。 ・べたがけ資材 畑一面あるいは作物に直接かける方法(べたがけ)で資材は軽くて扱いやすい不織布が使われ、直接かけるほかトンネルがけでも使えます。 <p>【主な品目別定植管理方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト 深根性の野菜であるので、作土層が深く透水性が良いところ栽培します。したがって畦は25～30cmの高うねとし、根群をできるだけ広い範囲で増加させることが大切です。 ・ナス 接木苗は接木部が土中に埋もれないようやや浅植えとし水分を多く必要とする野菜です。水分を一定に保つよう少量多回数のかん水を行います。 ・キュウリ 本葉3枚前後の若苗を根鉢が崩れないように植え付けます。 敷きわらは6月下旬から7月中旬頃までに行います。



農業豆知識

土壌の基礎知識（第1回）

土の役割

土壌の役割は、ご存知のとおり作物の生育必須条件として、光・空気・水・温度・養分がなければ作物は育ちません。農業は土壌を基本として成り立っていますが、土壌は養分の保持と供給を行う貯蔵庫とした役割と水・養分の供給を調節する二つの役割があります。

よい土とは作物がよく育ち、悪い土とは途中で生育不良になってしまう土のことを一般的に言いますが、自然に作り出された土ですから、十分に作物が育たない土でもある程度改良することによって、十分育つことが可能になります。

土の分類

土壌の分類については「土壌統」が採用されています。土壌統の定義の難しいことは省いて、土壌統上位の分類として、共通する土層をもつ一群の土壌を土壌群として16土壌群（岩屑土から泥炭土まで）、そして土壌統数の多い土壌については腐植層、グライ層、礫層などの厚さなどの違いにより土壌群と土壌統の中間分類の単位として56土壌統群が定められています。

長野県の水田では、灰色低地土が一番多く、次に多湿黒ボク土が続きます。畑では黒ボク土が最も多く次に褐色森林土が占めています。

丸子地域は、国道を中心にほぼ丸子全地域（沖から鹿教湯方面）は、長野県と同じく灰色低地土が大部分を占めますが、一部塩川地区では褐色低地土も存在します。また中山間地では褐色森林土が見受けられます。

土の三相

土を手にとって見ると、砂や粘土など固体の部分が占めています。土に水を加えると泡が出てきますから、空気などが入っていることがわかります。土は、固相（土の本体）・液相（水）・気相（空気やガス）からできています。この三相の割合は一定ではありませんが、一般的な畑の土で固相が40%位、液相と気相がそれぞれ30%位の割合になります。雨が降れば液相割合が増え気相割合が減ります。湿害は通常より液相割合が長く続いた場合に発生しますので、特に畑では長い間は排水せず、排水対策を施します。

土の土性

砂や粘土などがどのくらいの割合で混ざっていることの表す言葉として、埴土・壤土・砂土があります。このような表し方を土性と呼んでいます。

粘土の割合が少ない順から砂土 砂壤土 壤土 埴壤土 壤土となります。土を手に取り両手でこねながら長くしていき、細くできるほど粘土が強いことがわかります。

（資料引用土づくりハンドブック第2版 長野県他）

農業機械の整備点検は大丈夫ですか（5月は農作業安全月間です）

これから農作業が本格化します。毎年県内でも農作業事故が発生しています。

どうしても時間に追われたり、出荷時間が迫っていたため無理をしたため農作業事故に遭われるケースが多くありますので、時間にゆとりを持った農作業を心がけてください。

また今後十分に注意をして欲しいと思いますが、その前に日々使う管理機、草刈機、動力噴霧機などの機械の点検はされましたか。まだという方は、ベルトの亀裂、チェーンの緩み、オイルの交換・補充、グリスの補充など、安全と効率的な作業のため是非行ってみてください。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41 - 1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
近藤普及指導員 （25 - 7156）